

な に わ の 隅 で

# 小休止



阪急京東線・高槻市駅近くにある大阪医大(高槻市大学町)。その一角に1930年完成で、イスラム様式のアーチやアラベスク装飾が施された「歴史資料館」がある。国登録有形文化財。大丸心斎橋店(大阪市中央区)

## 大阪医大の歴史資料館

# ヴォーリズ設計 今も現役

本館は建て替え工事中の設計などでも知られるウィリアム・メレル・ヴォーリズ(1880〜1964年)が手がけた。3階建てで、2階には昔の医療器具や写真、顕微鏡などが展示されている。1階の講堂は学位記授与式などのセレモニーに使われ、3階の多目的講義室は研修会、市民向けのコンサートなどに利用される。単なる文化財ではなく、現役の建物だ。

「日本の医療教育系の建物で、ヨーロッパ風でなくインド・サラセン(イスラム)様式を取り入れているのはほとんど残っていません」そう解説するのは資料館長を兼ねる大阪医大微生物学教室の佐野浩一教授(62)の写真。

「中世のイスラムにも医学の原点がありまして。そもそも現代の西洋医学は、ヨーロッパとイスラムの医学が融合して



大阪医大の歴史資料館—高槻市大学町で

ると、こういうことになると、こういうことになると、この建物がヴォーリズが設計したものだった。その後、学舎の建て替えが進み、創立当時の建物はこれだけとなった。

大正時代の終わりが、現在と同じように医師が都市に集中し、農村部の医師が不足した。海外に移住する人々への医療提供者も少なかった。そんな中、世界のどこに行っても活躍できる資質を持った医師を育てようと、昭和の初めに財団法人として大阪高等医学専門学校(大阪医大の前身)が作られた。

「大都市、旧帝国大」とは別のフィールドを切り開く「地方、海外、医専」という図式か。佐野教授の話からは、「官」ではなく「民」が力を持つ大阪らしさがうかがえた。

同様にヴォーリズが設計した神戸女学院大(兵庫県西宮市)の学舎群は、現在も12棟が残され、見学ツアーも行われている。大阪医大でも学舎群ごと残っていたら……と思ったが、それは欲張りだろう。歴史を背負った建物が1棟でも残ったことは幸運だった。

「開校時の学舎群は、ほとんどの建物がヴォーリズが設計したものだった。その後、学舎の建て替えが進み、創立当時の建物はこれだけとなった。」

「開校時の学舎群は、ほとんどの建物がヴォーリズが設計したものだった。その後、学舎の建て替えが進み、創立当時の建物はこれだけとなった。」

「開校時の学舎群は、ほとんどの建物がヴォーリズが設計したものだった。その後、学舎の建て替えが進み、創立当時の建物はこれだけとなった。」

【関野正】 ※歴史資料館は入館無料。平日の午前9時半〜午後4時。事前連絡(072・684・6738)が必要。